



未来

第30号

平成26年
5月1日



平成26年度新人職員を迎えて



広島記念病院
病院長 中井志郎

I. 広島記念病院へようこそ

桜の花は、今年雪の多かった冬の時を超え、一気に暖かくなることで満開を迎えています。

日本の経済はアベノミクスによる政策が打ち出され、デフレ脱却が出来るかの期待の中の状態です。一方医療界は4月1日からの診療報酬制度の改革により一層厳しい状況を迎えています。

新年度を迎えるにあたり、内科 隅井雅晴医師、外科 宮本勝也医師がそれぞれ診療部長から副院長に昇任し、病院のマネジメント及び内科外科の診療機能の強化に努力していただくこととしました。

また、膵胆管外科医長首藤医師、肝臓内科医長阿座上医師をはじめとする、医師4名・看護師・保健師14名・理学療法士2名・事務1名の新しい仲間を迎えました。

今年度は特に、地域包括ケアシステムに向けた院内の機能整備、リハビリ部門の立ち上げと維持・強化を目標に掲げています。

II. 地域包括ケアシステムの考え方

日本の医療は、急性期の病気から慢性期の疾患まで、各病院ごとの機能分担を行いつつ、地域に患者さんを帰す、地域完結医療が叫ばれて来ましたが、2025年の高齢者問題から、さらに医療と介護を一体とした、地域包括ケアシステムの考え方に移行してきました。

急性期の医療をするだけでなく、地域の紹介医、介護チームとも連携を個別に取りながら、よりきめ細やかな診断・治療を行うと共に、急性期から回復期のリハビリテーションを行い、早期に在宅や療養施設に帰すための連携を取り、退院をさせていく必要があります。そのためには、次の院内の機能整備が必要です。

1. 入院時治療計画の策定
2. 退院時サマリー
3. 在宅、療養施設での治療及びリハビリ継

続のための情報提供

4. 定期検診等の連携の情報提供
5. 看取りのための情報提供 等です。

Ⅲ. 今後の広島記念病院の方向

『消化器疾患、特に「がん」に特化した方向性』

1. 診断の精度の向上

2. 治療方針

(1)手術方法の見直し

① 3次元、ナビゲーション

② 縮小手術

(2)化学療法

(3)放射線治療との連携

(4)温熱療法の取り組み

(5)免疫細胞療法の連携で癌ワクチンへの取り組み

(6)癌性腹膜炎に対する取り組み 等により浸襲の少ない治療法への取り組み、新しい治療法の開発及び啓蒙活動が必要です。

各職場で自分ができる「医療の質の向上」に向かって、より一層の研鑽をお願いいたします。

そうした一環として、今年度も前年度に引き続き「T. Q. M」活動の報告会を行います。



副院長就任のごあいさつ

副院長 隅井雅晴

この度、副院長を拝命致しました。私は、平成15年4月に広島記念病院に赴任し、今年で12年目を迎えました。平成21年9月からは診療部長を拝命し、試行錯誤を繰り返す中で組織を生かすことが出来るよう努めてきました。まだまだ十分な成果をあげてはおりませんが、この間、いろいろと助けて頂いた中井院長先生を初めとした病院スタッフの諸先生方、いつも声をかけて頂いた連携医、医師会の諸先生方、そして、たくさんの支援を頂戴した広島大学の医局の先生方には深く感謝申し上げるところです。また、無理なお願いを許して頂いている病

院のコメディカルの方々には、更に深い気持ちで感謝をするところです。さて、我々を取り巻く医療情勢は、高齢化する社会、変化を求められる病院機能、医師の減少など厳しいものがあります。しかし、いかなる状況になっても、広島記念病院の諸先輩方が作り上げてこられた皆様との“信頼”と“絆”を大切に、進むべき方向を見失うことなく更なる地域医療への貢献を積み重ねていきたいと考えています。一個人としては微力な私ではありますが、これまで広島記念病院で働いてきたことを誇りとして、お世話になった方々へ少しでも恩返しが出来よう努力していきたいと考えています。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。





副院長就任のごあいさつ

副院長 宮本勝也

この度4月1日付で副院長および地域医療連携支援室室長に就任しました外科の宮本です。同時に副院長に就任した内科の隅井先生とは広島大学医学部の同級生です。平成6年11月より当院に着任し約20年経過しておりますが、大役を仰せつかり非常に身の引き締まる思いであります。

今年度は個人的にも新たなスタートですが、病院にとっても激動の年になると思われまます。まずは当院の伝統でもあった産科が停止状態となり、現在一病棟が閉鎖中です。今後この病棟を如何に発展的に展開していくか検討中です。また今回の診療報酬改定にて国は7対1急性期病棟を減らす方針を明確に打ち出してきました。政府の方針である2025年「社会保障と税の一体改革」に向けてのキーワードは医療機関の機能分化、連携の強化、在宅医療および介護の充実です。それらの方針にそって当院の方向性を考えると、まずは従来から得意としている消化器疾患に対する医療を更に充実していくことが最も重要と考えます。その一環として、外科では今回大学病院で肝胆膵高度技能専門医として活躍していた首藤先生が当院に就

任しました、また小林先生は腹腔鏡大腸癌手術において日本でトップクラスの病院である虎の門病院に国内留学を行い、黒柳先生の先進的な技術を習得して帰ってきました。更に高度な医療技術を患者さんに提供できると確信しています。内視鏡室の拡充・充実を含め消化器センターの構想もあり、ハード面での充実も実現したいと思います。一方で当院の伝統である開業医の先生方との緻密な連携を保ち、いつでもご要望にお応えできる体制維持も非常に重要と考えています。今回新たに地域包括ケア病棟を新設する予定で、消化器疾患のみならず幅広い疾患に対応し、今年度から採用した理学療法士を中心に患者さんの在宅復帰を支援したいと思います。中規模病院としての利点を生かし、急性期から回復期、在宅後方支援まで幅広く患者さんのニーズに合わせた医療を展開する予定です。癌に対する手術のみならず化学療法や緩和ケアなどの集学的治療およびNST、褥瘡、嚥下などのチーム医療に卓越した坂下先生を中心に、病院全体で取り組んでまいりたいと存じます。

これからも患者さんや地域の先生方に信頼される病院を目指して頑張りますので、これまで以上のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



コンシェルジュ紹介



広島記念病院では平成25年7月から患者様・ご家族の不安や不満を取り除き、待ち時間の短縮・高齢患者様やお体不自由な方へのサポートなどを行い、安心して医療サービスを受けていただけるように、看護師「コンシェルジュ」を配置しました。

1階総合受付で、ご相談・ご案内も担当しています。

看護師というライセンスを活かして、“患者様・ご家族の視点でものごとを考え患者様・ご家族に寄り添う”ことを強みとしたコンシェルジュを目指しています。

モットー：隙間を埋める、きめ細やかなおもてなし

－ 4つのおもてなし－

1つ：入院予定患者様へのおもてなし

入院患者様は、入院案内までに病名・当日の検査等の情報を把握する。

病棟にお連れする間、情報をもとにこちらから言葉かけを行なう。

－病棟までの間の患者様・ご家族の不安を軽減する－隙間を埋めるコンシェルジュ

2つ：“気づき”を伝えるおもてなし

3つ：環境を整えるおもてなし

4つ：きめ細やかな接遇のおもてなし

良きコミュニケーション（態度も含む）モデルとなる。

3月地域医療従事者研修会

日 時：平成 26 年 3 月 6 日(木) 19:00～20:00

テーマ：『電子カルテでのフレキシブルパスの運用について』

～フレキシブルパスの基本と運用について～

講 師：ソフトウェア・サービス常勤顧問 井川 澄人 先生



井川先生は、日本クリニカルパス学会評議員でもあり、広島県内のクリニカルパスに関係する医師や看護師をはじめ、情報管理をしている方など幅広い職種の方々の参加がありました。

クリニカルパスとは、医療チームが共同で作りに上げた、施設として最良の治療を形にしたものです。

作成されたパスは、定期的にアウトカム（達成目標）やバリエーション（標準から逸脱する）を分析をして最良であるか評価・検証することが必要です。この時、データ

収集と分析が現場では手間隙がかかり問題になっています。

新機能の紹介で、データ収集や分析作業効率が上がるということが分かりました。このことにより、エビデンスに基づいたパスの更新ができることになります。

また、クリニカルパスは標準化はされていますが、一度逸脱すると使用できませんでした。フレキシブルパスでは、柔軟なルート設計ができ、患者の個別性に対応できることが分かりました。

電子化でいろいろなことが出来ますが、“最良の医療を患者に提供するため”という、クリニカルパスの目的を忘れず、パスを発展させていきたいと思う研修会でした。

4月地域医療従事者研修会

日 時：平成 26 年 4 月 17 日(木) 18:30～19:45

テーマ：『身近な不整脈』～心房細動の Up to date～

講 師：広島記念病院 内科循環器医長 山田 朗



今回の地域医療従事者研修会は、当院循環器医長である山田朗医師が、「身近な不整脈である心房細動の臨床像や治療」について講義を行いました。

心房細動は心不全、頻脈性心筋症、脳梗塞、心筋梗塞などを引き起こす疾患であり、適切な診断と治療により完治も期待できることについての解説や、カテーテルによる除細動や外科的治療、カテーテル device による左心耳閉鎖などの治療方法について、動画も交えて説明しました。

第7回 広島記念病院 公開講座

日 時：平成 26 年 3 月 18 日(火) 13:30 ~ 14:30

テーマ：『逆流性食道炎』

～単なる胸やけで片付けていませんか？～

講 師：広島記念病院 診療部長 隅井雅晴



講演では、逆流性食道炎とは“胃食道逆流による身体的合併症や、逆流関連症状により健康な生活を障害しているもの”で正式名を胃食道逆流症というという説明から始まり、胃食道逆流症の診断が何故重要なのか？・頻度・治療・合併症・非定型的症状・日常生活における工夫・胃食道逆流症と間違いやすい病態について詳しく説明がありました。

中でも内服薬によって症状が増悪する場合があるとのお話では、参加者の方から驚きとともに心配される声が多く聞かれました。

参加者の皆様には、逆流性食道炎の自覚症状をチェックシートで確認していただきましたが、8点以上になった方には、まず内視鏡検査を受けられることをお勧めし、医師の診察を受けられる時は①必ず感じている症状を正確に伝える②内服しているお薬を伝える事が重要である事をご理解いただきました。

逆流性食道炎は過去の公開講座のアンケートで一番要望が多かったテーマで、遠方からの参加して下さった方、また町内会の方々も多数ご参加頂き、関心の高さを感じました。



第4回 健康教室

日 時：平成 26 年 2 月 21 日(金) 13:30 ~ 14:00

テーマ：『更年期をバラ色に』～更年期障害の予防と対策～

講 師：広島記念病院 婦人科医長 横田 康平



昨年の健康教室に引き続き今年も昨年と同様のテーマで開催した。

平均寿命が年々伸びていく中で、いかに健康で生きるか、大きな課題であり、世間で話題となっている PPK（ピンピンころり）願望についてのお話から講義が始まりました。

更年期障害の原因・主な症状・主な治療法について講義され、中でも原因のひとつに夫原病（夫の存在が原因となる）があるとの話の時は会場からクスクスと笑い声が出ました。

治療法の中で、特にエストロゲン補充療法の効果とリスクについて また、補充療法をしてはいけない方についての講義があり、とても参考になりました。

最後に共催の本川地区女性連合会会長の田中八重子様から横田先生にお花をいただきました。

平成26年新採用者宿泊研修

研修担当者 千代延 篤志



平成 26 年 3 月 15 日～3 月 17 日の 3 日間、宮島包ヶ浦自然公園にて新採用者宿泊研修を行いました。この研修は、毎年 4 月 1 日より採用される新採用職員全員を対象に、①人と人とのかかわりを通して自己をみつめ、仲間作りの土台とする。②専門職能を高めるために相互の啓発に役立つグループ作りをする。③コミュニケーションマナーを身に付ける。以上のことを目的とし、昭和 56 年より始められた当院伝統の宿泊研修です。今年度は、看護師 14 名・事務員 1 名・研修担当者 5 名の総勢 20 名が研修を行いました。外部講師を招いた「社会人としての心構え」の講義から始まり、自己アピールを書いた手作り名刺による自己紹介、五感を研ぎ澄ませる「無言の探索」、2 日目には弥山登山など様々なグループワークを行い、研修の目的を達成することが出来ました。

この研修を通して 4 月から働く上で心強い仲間が出来たことと思います。その絆を大切に、記念病院の新しい仲間として頑張っていきましょう。

皮膚・排泄ケア認定看護師

“ストーマ外来”“訪問看護”



医療提供体制は、人口の高齢化に対する在宅医療の充実や専門性の高い医療の提供が求められており、平成26年度の診療報酬では在宅分野に関する内容が多く改定されました。地域医療支援病院である当院としては、在宅で過ごされる方が安心して療養できるように、地域の医療機関の皆様と連携していくことが大きな役割であると考えています。

平成21年皮膚・排泄ケア認定看護師を取得、平成25年4月より専従の褥瘡管理者として勤務しています、看護部 森本純子です。当院では、「褥瘡ハイリスクケア」「ストーマ外来」「専門性の高い訪問看護」等の活動を行っています。

平成25年度の当院の現状としては、65歳以上の入院患者の割合は58.3%で、褥瘡の院内発生が68件、持ち込みが65件でした。院内発生については58.8%が治癒し、17.6%が未治癒で退院もしくは転院となっています。持ち込みについては78.5%が治癒し、21%が未治癒で退院もしくは転院となっています。このように、褥瘡の継続治療を必要とされるケースは、これから更に増加していくことが考えられ、在宅や転院先での褥瘡治療やケアの必要性は高くなると言えます。

ストーマについては、平成25年度のストーマ造設28件、ストーマ外来件数207件でした。ストーマ外来受診者では、60歳以上の方が約90%を占めており、在院日数の短縮や人口の高齢化から、在宅でストーマケアを必要とされる方が多くみられています。

皮膚・排泄ケア認定看護師として、“ストーマ外来”や“専門性の高い看護師による訪問看護”等で専門性の高い知識・技術を提供し、在宅で過ごされる方やご家族の方が安心して在宅療養できるように、在宅医療スタッフの皆様と共にケアを行わせていただきたいと思います。皮膚・排泄ケア分野に関する、ご相談や研修会の開催にも対応していますので、お気軽にご相談ください。

ストーマ外来！

ストーマに関する相談を受ける場です。ストーマのトラブルに対するケアや不安に対する対応、日常生活のアドバイス、異常の早期発見を行っています。2階の外科外来にて、1人1時間の予約制で行っています。

☆対象／当院で人工肛門を造設した方はもちろんのこと、当院以外で人工肛門を造設した方も対象としています。

☆算定／ストーマ処置料：1回70点（月何回でも可能）

在宅療養指導料：1回110点（月1回のみ可能）

☆ストーマ外来日／水曜日・木曜日・金曜日（9:00～12:00）

緊急時は時間以外でも対応しています。

☆オストメイト交流会／年1回開催しています。

オストメイト交流会

▶年1回、毎年開催しており、今年で5年目の開催となりました！ストーマ装具の説明や展示、交流会を行っています！



専門性の高い看護師による訪問看護！

真皮を超える褥瘡の状態にある在宅療養中の患者に対して、皮膚・排泄ケア認定看護師が医療機関または訪問看護ステーションの看護師と同行訪問することが必要です。在宅で行われている褥瘡ケアやポジショニング等に関すること、ご家族や医療機関・訪問看護ステーションの方達の疑問や不安にお応えしています。

☆算定／1回1280点（月1回のみ）

当院の医師・看護師などのメンバーと、毎年参加しています。昨年度は「専門性の高い看護師による訪問看護について」学会発表しました！

日本褥瘡学会



内科(糖尿病)久安医院

院長 大久保 雅通先生



1) 開業されたのはいつですか。

昭和38年に家内の父が開業し、その後家内もこちらで診療を始めました。

私は大学病院に勤務していましたが、平成13年からこちらで診療しています。

2) どのような患者様が多く受診されますか。

糖尿病・生活習慣病を主に診療しており、糖尿病の患者さんが約600人おられます。大学病院では内分泌も担当していましたので、甲状腺も診ています。

3) 日々の診療で心がけておられる事はございますか。

当院に受診される患者さんには、できればインシュリンをしたくない方、食事療法がうまく行かない方もおられます。

そういう患者さんに対して病状がコントロールできるよう、管理栄養士とも一緒に考えて診療しています。

病院と違って診察室との距離が近く連携が取りやすいので、待ち時間に管理栄養士から患者さんに声をかけてお話をうかがい、そこで得た情報を診察前に報告してくれる事もあります。

4) 広島記念病院の印象についてお聞かせください。

検査の予約はスムーズに取れますし、救急のときも迅速な対応をしてもらえるので、開業医にとってはありがたいです。

また、紹介の返事が早いのもいいと思います。紹介した当日付けの返事をもらえて、病理結果等も改めて報告がくるので、こちらも安心できます。

5) 先生はどのように気分転換されていますか。

仕事をきっちりすることや、勉強会に参加することがストレス解消になっていると思います。

地域の先生方と診診連携を取っていて、かなりの数の勉強会をしています。

私自身が世話役をしているものも年に十数回あり、自分が講演することもあります。

ここ数年糖尿病の新しい薬が出てきていますが、最近はテレビなどの情報も早く、患者さんから質問されたときに分からないということが無いように、常に新しい情報を得るようにしています。



外来受付時間	月	火	水	木	金	土	日	祝	備考
8:30~12:00	○	○	○	○	○	○			休診日：木・土午後 日・祝日
14:00~18:00	○	○	○	○	○				

※外来受付時間等は変更になっている場合がございますので、事前に必ず該当の医院に直接ご確認ください。

広島記念病院「理念」「憲章」

理 念

患者の皆様が、安心して受診できる、やすらぎの環境及び満足と信頼が得られる最良の医療サービスを提供する。

憲 章

1. 私達は、「癒しの心」を医療の心として職務に専念します。
2. 私達は、患者様の人権と意思を最大限に尊重し、納得と同意に基づいた全人的医療を目指します。
3. 私達は、日々自己研鑽に励み、良質で温もりのある、地域に密着した医療を心がけます。
4. 私達は、地域医療体系に参加し各々の持てる機能の連携により、より合理的で効率的な良質の医療に努めます。

地域医療連携室

TEL 082 (503) 0730

FAX 082 (503) 1010

代表 広島記念病院

TEL 082 (292) 1271

FAX 082 (292) 8175

庶務課

TEL 082 (503) 1001

内科・外科

FAX 082 (503) 0722

産婦人科・小児科

FAX 082 (503) 0723

耳鼻科・皮膚科・泌尿器科

FAX 082 (503) 1010

記念寿

TEL 082 (294) 8400

FAX 082 (294) 8420

合庁(合同庁舎診療所)

TEL 082 (221) 9411

FAX 082 (223) 6204

歯科診療所

TEL 082 (294) 7858

外来診療担当表

平成26年4月1日現在

診療科	受付時間	区 分	月	火	水	木	金	土
内 科	8:30~11:00	一 診	隅 井	山 田	隅 井	隅 井	津 賀	当番医
		二 診	江 口	田 村	津 賀	江 口	田 村	
		三 診	炭 田	阿座上	炭 田	阿座上	山 田	
		四 診						
総合診療科	8:30~11:00		横 崎	菊 地			休 診	
外 科	8:30~11:00	一 診	宮 本	中 井	坂 下	宮 本	中 井	当番医
		二 診	首 藤	横 山	首 藤	横 山	坂 下	
	三 診	小 林	手 術	小 林	手 術	手 術		
	13:00~14:30		宮 本	中 井	坂 下	宮 本	中 井	
		手 術	手 術	手 術	手 術	手 術		
産婦人科	8:30~11:00	一 診	横 田	横 田	横 田	横 田	横 田	休 診
	13:00~14:30	一 診	横 田				横 田	
小 児 科	8:30~11:00	一般診療	岸	岸	岸	岸	岸	
	13:00~13:30	健診・予防接種	予防接種	乳児健診(予約)	予約検査	予約検査	予防接種	
	14:30~16:00	一般診療	広大医師	藤 井		岸	岸	
耳鼻咽喉科	8:30~11:00	一 診	長 田		長 田		井門、又は杉本	
皮膚科	8:30~11:00		河 合				横 林	
泌尿器科	8:30~11:00			井 上		重 松	川 崎	
眼 科	8:30~11:00	一 診	金 本	金 本	金 本	金 本	高 本	
		二 診		藤 東		藤 東		
	午後(予約のみ)	手 術	検 査	手 術	検 査			
広島記念診療所 歯 科	8:30~11:00		山 田	山 田	山 田	山 田	山 田	電話番号 294-7858
	13:00~16:00		山 田	山 田	山 田	山 田	山 田	

* (注) 土曜日は休診ですが、内科一診、外科一診は診察しております。
歯科を除く各科とも再診は7:30から受付けています。

部分は女性医師です。

広島記念病院案内図



交通のご案内

JR 広島駅より市内電車宮島行き・己斐行・江波行にて、
本川町下車、南へ100メートル徒歩1分
広島バス商工センター行き・祇園大橋行きにて
本川町下車、南へ100メートル徒歩1分
広島駅前よりタクシーで約10分

駐車場

立体駐車場 72台、平面駐車場 10台
身障者専用駐車場 3台
詳細は病院ホームページをご覧ください